

理 事 就 任 の 抱 負



青森市薬剤師会 青 木 一 朗

この度一般社団法人青森県薬剤師会理事に就任しました。青木一郎です。

昨今は薬局並びにそこで従事する薬剤師にとっては風当たりが強くなってきております。とかく全国規模のチェーン薬局には強くなってきているように感じますが実際にはすべての薬局が厳しい状況になってきております。

そのなかでもOTCや医療用の医薬品の供給に関しては、国民目線でみても、どの薬局に行っても、薬剤師に相談しても安心できる状況になってきているのではないかと感じております。では、今後薬局はどんなことに関心を持っていかないといけないのでしょうか？

生産性の向上、移民問題、国民皆保険の危機の3点でしょう。

我が国日本が世界に誇れる国民皆保険の存続の危機は薬局から始まる可能性があります。それは1955年から1973年の18年間我が国は高度成長期でありました。この時期日本の経済は欧米各国と比較しても2～4倍の経済成長率をとげました。どうしてそんなに発展できたのか？実は当時の状況は今の人口問題と非常に似通っている点がありました。高度成長期の時期は大戦で働き手が足りなかった、人手が足りないインフレギャップ状態です。そこで機械化が進み効率よく生産できるようになり経済発展を遂げたのです。ではなぜ諸外国と差がついたか。ヨーロッパにおいては、ナチスドイツとの戦いによる働き手の損失、その損失を移民で埋めた。それにより労働者が外国人にとってかわり賃金レベルがさがり所得が日本より高くならなかった。日本の現状では全国レベルで生産年齢人口の比率が下がっている。そうです働き手が少なくなっているのです。働き手が少ないということは、生産性の向上を達成すると高度成長期と同じ現象になることが考えられます。生産年齢人口が少ないということは薬剤師になりたい人の人口も当然少なくなると考えられます。ましてや高齢

者が増加し医療機関を受診する人が多くなるのは想像し難いことではないと思います。

1日当たりの処方箋受付回数80回のうち3回分在宅・居宅に関する業務3人の薬剤師でやっていたが、高齢者の増加により受付回数が100回そのうち10回在宅・居宅に関する業務を同じ人数でやらなくてはいけない。当然薬剤師は募集してもなり手が少ないので中々補充はできない。じゃあ調剤に関する事、監査に関する事を機械化しようじゃないか、でも購入には融資がいる、という問題が当然出てきます。

また薬剤師が足りないなら外国の薬剤師を雇えるようにすればいいじゃないかという意見が出てくるかもしれません。一見すばらしい案のように感じますが、これは高度成長期の欧米各国と同じく賃金レベルが下がるという問題以上に日本の薬剤師の職場がなくなるという問題があります。6年間かけて卒業してくる後進の方々の問題になる可能性が大です。

昨今は薬歴未記載問題、処方せんの付け替え請求問題に端を発し薬局に対してのバッシングが起こっております。この度の調剤報酬にも大きく反映されました。該当する薬局の問題では済まなくなる可能性があります。まず一部上場している薬局において2期連続赤字もしくは2期連続前同割れがあった場合株主より経営陣の交代や一新が求められます。その際、株主のバックに外国の医産複合体（医薬品メーカー、医療機器メーカー、生命保険会社など）から融資を持ちかけられたら断ることができるでしょうかましてやTOBが掛けられたら守ってもらえるのでしょうか？一夜にして日本の大手チェーン薬局が外国の薬局になってしまう。そして諸外国との2国間協定がむすばれるとサービス事業に関する事も2国間共通のルールで行うことが求められてきます。そのサービス事業で最大なものは医療サービスです。

わかりやすく言うと薬局の医療サービス、保険薬局業務が10割負担になり国民皆保険から外される可能性が考えられます。それが発端となり国民皆保険の解散もあり得ます。

以上のような問題に関して一助になればと思い理事になりました。まだまだ書きたいことがありますがこの辺でご挨拶とさせていただきます。会員の皆様よろしくお願いいたします。



弘前薬剤師会 佐々木 克 典

この度、青森県薬剤師会理事を拝命いたしました、弘前薬剤師会の佐々木克典と申します。

私はこれまで、地域保健委員会の委員として地域保健、薬薬連携に力を注いできました。元病院薬剤師、現開局薬剤師としての経験、東日本大震災時から現在におけるボランティア薬剤師の経験、現在は介護関係、これらの経験を生かして理事の末席から青森県薬剤師会の一員として頑張っていこうと思っています。

これからは青森県内の薬剤師の先生方、青森県薬剤師会に貢献出来るよう微力ながら頑張りますので宜しくお願い致します。



八戸薬剤師会 阿 達 昌 亮

この度、理事を拝命いたしました八戸市のワカバ薬局の阿達昌亮でございます。青森県薬剤師会総会において理事就任をご承認いただいた皆様のご負託にお答えするため、精一杯務めて参りたいと思います。

昨今、薬剤師の存在価値を否定されるような評価に心が折れそうになりますが、一方で薬剤師には医薬品の有効性と安全性を確保するために多くの期待が寄せられてきております。薬の専門家として一人ひとりが継続的な研鑽に努めていくことは勿論、日々のお仕事でも会員の皆様は個々に頑張っていると思います。ただそのスキルや取組のアイデアを自分だけに留めておかず、ぜひ青森県薬剤師会員へ広げていただきたい。薬剤師会全体で取り組んでいかないと社会の適正な評価に繋がらないのではないのでしょうか。

このためにも、ぜひ、県薬事業に積極的にご参加いただき、薬剤師ネットワークを広げ、活用していただきたいと思います。

患者様より信頼される薬剤師の実現を目指して会員の皆様のご協力をお願いし、微力ながら精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。



八戸薬剤師会 類 家 徳 久

この度、当会の理事の職をお預かりすることになりました類家徳久と申します。八戸市の大学堂薬局に勤務しております。

このような貴重な機会を頂きましたことに深く感謝を申し上げますと同時に、長きにわたり青森県の医療を支え、歴史を紡いでこられました先輩諸兄の皆様の功績に鑑みますと、多大なる責任を感じ身が引き締まる思いであります。

青森県は長らく短命県から脱却できておりません。その原因を探ってみると、厳しい自然環境から知恵と工夫で生まれた食生活等の名残が、現在の生活習慣に影響を及ぼしていることが要因として一つ挙げられると考えております。変わりゆく社会と共に医療が目まぐるしく進歩する中で、それがわが県の課題となっていることは事実です。私たちは医療の担い手として、この課題に寄与することが務めの一つだと思っております。そんな一つひとつの取り組みが、薬剤師という地位の向上に繋がっていくのだと考えております。

また、私は今期、一般用医薬品等委員会に配属されております。医療費等も含めた国家の方針もあり、処方箋に対する見方も変化しております。同時に、窓口での患者様に対する対応も、医療用医薬品のみならず、より広い知識や指導力、コミュニケーション能力が求められてきております。ここは薬剤師にしかできない事として、より必要とされ、より求められる薬剤師を目指し、これまで以上に資質を高めていかなければならない場と考えております。委員会としても、会員の皆様に少しでもお役に立てますよう、様々な情報を発信して参りたいと思います。

結びに、会員の皆様方から引き続きのご指導とご協力を頂き、青森県薬剤師会の更なる躍進と各地域医療の発展に向けて邁進して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



西北五支部 清 水 康 哉

この度、役員改選により理事に就任しました西北五支部の清水康哉と申します。昭和42年生まれの50歳です。出身は北海道足寄郡陸別町です。大平原の十勝平野で育ちました田舎者です。現在は、家内と縁ありまして、五所川原市に住んで20年経ちます。

北海道医療大学卒業後、メーカー勤務→一般販売業→保険薬局勤務→現職（めぐみ薬局）開設して、現在に至ります。過去には、腹膜透析の処方箋応需、現在は、眼科門前にて処方箋応需・一般用医薬品も平行して販売しながら日々、地域の医薬品供給に貢献し続けたいと考えます。

今後、一般用医薬品研修会などで見かけましたら、気軽にお声掛け頂ければと思いますのでどうぞ宜しくお願いします。最後に、会員皆様の益々のご繁栄お祈りし、挨拶とします。